

血清チミジンキナーゼ活性の測定により早期摘発した 地方病性牛白血病罹患牛の1例

坂本礼央¹⁾ 大林 哲²⁾ 古林与志安¹⁾ 松本高太郎¹⁾
石井三都夫¹⁾ 猪熊 壽^{1)†}

1) 帯広畜産大学畜産学部 (〒080-8555 帯広市稲田町西2線11)

2) 十勝農業共済組合 (〒089-1182 帯広市川西町基線59-28)

(2009年9月17日受付・2009年11月24日受理)

要 約

チミジンキナーゼはDNA合成に関わる酵素の一つであり、近年牛白血病の発症マーカーとして利用できることが報告されている。今回、牛白血病ウイルス汚染農場において、本酵素の活性を測定することにより、牛白血病罹患牛の早期摘発を試みた。その結果、臨床症状は示さなかったものの、地方病性牛白血病に罹患していた10歳9カ月齢のホルスタイン種雌牛を摘発できた。牛白血病ウイルス汚染牛群における本酵素活性の測定が、地方病性牛白血病罹患牛の早期摘発に臨床上有用であることが本研究により示唆された。

——キーワード：地方病性牛白血病，早期摘発，血清チミジンキナーゼ活性。

----- 日獣会誌 63, 191～193 (2010)

† 連絡責任者：猪熊 壽 (帯広畜産大学畜産学部)

〒080-8555 帯広市稲田町西2線11 ☎・FAX 0155-49-5370 E-mail : inokuma@obihiro.ac.jp